

# 共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No.5

2012年3月28日 大会執事活動委員会

## \* 東仙台教会 活動報告

### 1. にじいろ楽習会

毎週(月)(水)(金)の3日間サクラハウスで行ってきた「にじいろ楽習会」は、3月16日で今年度の活動を終えて春休みに入りました。最終日に行った懇談会では、多くの保護者の方々から、東仙台教会やその活動を支えている全国のクリスチャンに対する感謝の言葉をいただきました。新学期の活動は4月13日から始めます。すでに新一年生の保護者たちから申し込みを受けています。今後の活動のためにお祈りください。



### 2. ボランティアセンターのスタッフの異動

昨年4月から長期にわたり献身的に奉仕してくださった宮良杏子さん(立石の小学校時代の同級生)が今月で埼玉に戻り、4月からは、熊田真介兄(上福岡教会)、ラウワ憲子姉(日本長老教会さがみのキリスト教会)、砂田裕基兄(保守バプテスト津田沼教会)が長期滞在スタッフとして加わります。鈴木契太兄(東仙台教会)も引き続き奉仕してくれます。新しい体制で始まる4月からの活動のために、お祈りください。

### 3. 感謝

1月30日の「スケート遠足」で怪我をした小学5年生の子は順調に回復しています。3月中旬に退院して、今は松葉杖で学校に通っています。ご家族との交わりも祝福されています。皆様のお祈りに心から感謝いたします。



### 4. 仮設住宅の方々との交わり

一年の時間が経ち、仮設住宅では心を病んでおられる方が増えています。震災直後はただ生き延びることに全力を尽くし、避難所にいるときには仮設住宅に入れる日を待ち侘び、それが実現して一年が過ぎました。しかし、現状はほとんど変わらず、先の見えないぼんやりとした希望の無さを感じつつ、何も変わらない日々がただ過ぎてゆくように見える中で、さらに深い孤独と失望感に襲われている方がおられます。そのような仮設住宅の方々への働きをこれからどう展開してゆくべきか、良き導きを与えられますようお祈りください。

### 5. 子供キャンプ

3月28日(水)~30日(金)に二泊三日で「子どもキャンプ」を行います。45名の子どもたち(40名が野蒜小学校から、5名が東仙台教会と仙台カナン教会から)と19名のスタッフが参加します。安全が守られ、祝福されたキャンプとなりますようにお祈り下さい。(東仙台教会牧師 立石彰)

## \* 山元町「のぞみセンター」について

4月16日にミッション協議会が「のぞみセンター」にて、開催されます。現在なお、定住される奉仕者を確定することができません。センターのディアコニアにとって、奉仕者の選定は、決定的に重要な課題です。実りある会議となり、ふさわしい奉仕者が備えられ、一日も早くセンターが開設され、被災者のために国内外からの尊い献金が有効に用いられるようにお祈り下さい。

## \* 3月19日河北新報より 「修復トモダチ作戦 米国の大工らが教会工事に無償協力」

仙台の「河北新報」という新聞に、アメリカの奉仕者による仙台教会会堂修復工事のことなどが取り上げられました。以下にその記事をご紹介します。



『東日本大震災で壁が崩落した仙台市若林区の日本キリスト改革派仙台教会の修復作業を、米国の信者のボランティアが取り組んでいる。来日費用も含め、全てが手弁当。協力のかいあって、工事はまもなく完了する。』

教会は1905年、現在地に米国の信者らによって建てられた。採寸が欧米式のため、国内の業者に頼むと多額の費用がかかる。信徒会が思案していたところ、同じ改革派の仙台めぐみ教会(泉区)のカルビン・カミングス宣教師(70)＝名取市＝が米国の信者に声を掛けてくれた。その結果、

40人を超える大工たちが無償協力で名乗りを上げた。壁に使う木材なども米国から船で運んで用意。今月初めから作業に取り掛かった。米国からのボランティアは、1週間ごとに入れ替わりで来日。近くの銭湯を使い、仙台教会で寝泊まりしている。シカゴから参加したフランク・ベン・ホーバーさん(48)は「仙台はとてもいい街。日米の文化の違いも面白いので、苦にならない。津波をはじめ震災の被害を実際に目にして胸が詰まった。修復を通して少しでも力になりたい」と話す。

信徒会代表の会社員佐々木和雄さん(65)＝若林区＝は「費用が工面できない中で助けてもらい、本当にありがたい。きれいになった教会で活動を続けていきたい」と感謝する。米国からのボランティアは仙台教会のほか、宮城県山元町に宿泊所の建設も進めている。被災した歯科院を宣教団が買い取り、ボランティアのための宿泊所として建て替える計画。5～10年先には教会として使う予定で、「心のケアの拠点」(カミングスさん)とする考えだ。』

## \* 新垣 勉 希望のこぼれコンサート 報告と感謝



希望のこぼれコンサートのために、全国の改革派教会の皆様には温かいお祈りを捧げていただき、ありがとうございました。震災から1年目の当日、恵みのうちに無事コンサートを終えることが出来ました。感謝いたします。

当日の天気予報ではコンサートの始まる夕方から大雪の予報でしたが、なんとか開始の時間まで天候が支えられました。およそ500名近い方たちが、北は気仙沼市、南は山元町から集まってくださいました。特に野蒜・東名地区で救済活動を続けてこられた東仙台教会チームとの連携で、これまで関わって来られた被災者の方たちをお招きすることができました。またコンサート会場のある仙台市若林区は、仙台市でも津波による被災者の多かった地域で、東北ヘルプとの連携で仮設住宅の方たちもお招きすることができました。

コンサートは震災から1年目の当日ということもあり、伝道色を前面に押し出さない、控え目なものでしたが、かえってそれが聞きに来られた方たちに好感が持たれたようで、わざわざそのことをアンケートに書いていかれた方もいらっしゃいました。新垣勉さんの歌声と語り、聞く人の心に深く染みいったことは言うまでもありませんが、友好出演してくださった地元の聖ウルスラ学院の合唱部の歌声も地元の方たちには励ましとなったようです。コンサートの最後には会場と一体となって「翼をください」を歌いましたが、会場には涙を流しながら歌っている人もみられました。

コンサート終了後、300人近い方がアンケートに応じてくださり、今なお心に抱えている苦しみや悲しみを語ってくださいました。これからも共に歩んで行く必要を痛感いたしました。最後になりましたが、当日会場でスタッフとしてご奉仕してくださった仙台教会の皆様、この場を借りてお礼申し上げます(CRCメディア・ミニストリー 山下正雄)。

## \* 陸前高田仮設住宅支援活動報告



東北中会協力宣教師： 李 根培  
昨年 8 月から岩手県陸前高田市にある仮設住宅支援活動が始まりました。今年 2 月 14 日で 11 回目の訪問となりました。今まで続けられるように導いてくださった神様に感謝しつつ、ご報告をさせていただきます。

今では一本松で有名な陸前高田市ですが、その中の矢作町の五つの仮設住宅と米崎佐野地区の一つの仮設、合わせて 200 世帯のご家庭を支援しております。特に矢作町は陸前高田市の中心部から離れた山間の地域です。陸前高田市の仮設住宅の中では比較的遅く設置された住宅で、8 月に私たちが訪問した時には、やっと入居出来たばかりの方々でした。市役所自体が津波で流され、中心部から離れ、そして小さい仮設が多いこの地区には行政の手が届きにくく、必要物資は手に入らない状況でした。このような状況のところ、私たちが訪問し、支援活動をしてまいりました。何を持って行っても非常に喜ばれました。

私たちは定期的に仮設住宅を訪問しています。昨年までは、仮設の方々の必要な物資を持参し、一日で六つの仮設住宅を全部回ることによって精一杯でした。しかし、最近では仮設住宅の状況が変化してきています。「物資よりはお話をしたい」という願いが多くなってきました。お話が始まると、なかなか止まりません。いろんな話が出ます。ほとんどが 3・11 の大津波が押し寄せた時の話や、今後の不安等のお話ですが、夫を亡くしたり、愛する家族、親族、友達が流された話をも聞いております。私たちは、このようなお話の前に慰めの言葉を失うのです。口では何も話せませんが、私たちチームの一人一人は心の中で祈ります。「主よ、この方を慰めてください。助けてください。信仰を持つように、あなたへと導いてください」と。涙を流す人と共に涙を流すために、心を痛めている人々と共に心痛めるために、これからも私たちは、あの一本松の陸前高田に向かいます。



## \* 第 5 回 名古屋岩の上传道所被災地ディアコニア活動報告

■日 程：2012 年 3 月 18 日～20 日

■奉仕者：岩の上传道所 9 名、愛知県立芸術大学学生 5 名、ソウル・カベナントチャペル 1 名、いずみ教会 1 名、仙台カナン教会 2 名 合計：18 名

■奉仕場所 亘理町：亘理旧館仮設住宅(100 世帯弱)、山元町：旧坂中跡仮設住宅(80 世帯弱)、山元町：ナガワ工業団地仮設住宅(130 世帯 初訪問)



■主な活動：カフェ(亘理旧館・旧坂中跡集会室、各 20 名ほどの参加)、押し花カード作製、腹話術、一日なんでも屋(包丁ときなど)、エプロンシアターや大型絵本、コンサート(亘理旧館、ナガワ、各 20 名ほどの参加者)、エコバックの配布(犬山教会、豊明教会、那加教会、多治見教会、吉原富士見伝道所、太田伝道所、名古屋岩の上传道所、神戸長田教会から総計：194 枚、感謝致します)

初めてのカフェの計画でしたが、大変和やかな雰囲気を楽しんでいただくことができました。震災後のディアコニアは必要な物資を届けることを行いましたが、今はキリスト者として、お一人お一人との対話が求められています。催しには参加されない大勢の方へのアプローチ、文通のディアコニアを継続したいと強く思



いました。今回も、岩の上传道所だけではなく、与えられた奉仕者、皆様のお祈り、中会・大会の支援があり、全てが神のご計画と摂理の内に整えられました。今なお過酷な状況にいらっしゃる方々の上に、主の助けと慰めを心から祈ります。報告者：岡本真理（ディアコニア支援室長）

**\* 第4回 浜松伝道所被災地ディアコニア活動報告** 松本直哉（浜松伝道所ディアコニア室長）

■日程：2012年3月9日～14日 ■奉仕者：浜松伝道所1名

■奉仕場所：東松島市 ひびき工業団地内応急仮設住宅（3集落、約70戸）、川下公民館

■主な活動：東仙台教会のディアコニア活動の一環として、昨年10月から文通と物資支援による仮設住宅への支援活動を、中部中会の有志と共に定期的・継続的に実施しています。今回は、現在支援している家庭（35世帯）と、4月から支援を始める家庭（12世帯）への訪問を行いました。

**\* 東日本大震災第二期募金状況**

昨年11月から継続している第二期募金（目標額6,000万）は、第一期募金終了後に献げられた3,500万円と合わせて、**3月22日現在で約5,000万円**になっています。この中にはオランダとニュージーランドの教会からの募金も含まれています。募金目標が達成されて必要な援助ができるよう、引き続き皆さまのお祈りとご協力をよろしく願います。募金の締め切りは2012年7月末日です。



<今月の御言葉>

普段から「いと小さき者」に配慮を！

マタイ 25:37 すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』マタイ 25:40 そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』（マタイによる福音書 25章 37、40節）

この御言葉は、主イエスが十字架におかかりになる前に弟子たちに語られた終末についての説教です。主イエスは再臨の時に、信仰者に対して「自分を愛するように隣人を愛しなさい」という御言葉をどれほど実践してきたかを尋ねます。主イエスが誉める者とは、「自分で気付かない内に、飢えた人や旅で疲れた者や病気の者らに心を寄せる愛と思いやりに富む行為を、普段から心注いでいる者」のように見えます。

東日本大震災から1年、まだまだ多くの困難な方々があります。その様な時に第二期募金のような献金の支援や目に見える音楽・コンサートの支援は大変感謝なことです。更にもう一面、心したいことは、数多くの困難を覚えている「いと小さき者の一人」への思いやりや配慮です。すなわち、愛の執事的奉仕を無意識の内に行う信仰者の習慣こそ大切であると思います。これは教会の本質であつ最も得意とする方法です。

東日本大震災支援2年目、形で追った1年目の支援から信仰者の本質で行う支援に切り替える時だと思えます。そうすれば支援の輪は確実に広がるでしょう。一つの提案ですが、大会や中会で築いたシニア層の人的ネットワークを結集すれば支援の輪は拡大します。なぜなら彼らは、実際今まで教会を支えて愛の執事的奉仕を実践してきた方であり、その信仰を支援に向ける境遇にいるからです。支援に新しい息吹を！

（大会執事活動委員会委員 豊川修司）